

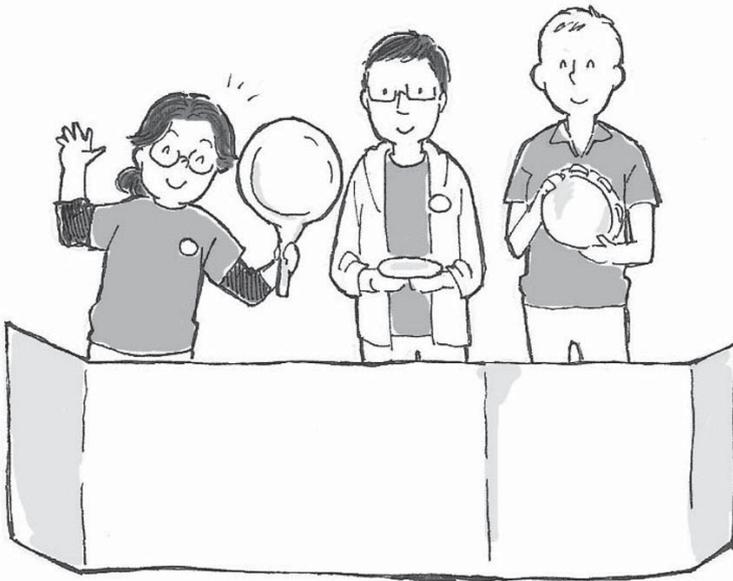
楽器音あてクイズ

“音”そのものに 興味を持つ事が 音楽の入口

●基本パターン

ひとりで出題します。

- ①いくつかの楽器（もしくは音の鳴るもの）を見せます。
イラストや写真でもよいです。
- ②ついたてなどを用意し、出題者が隠れ、問題となる音を鳴らします。
- ③①で見せた物の中のどれが鳴っていたのかを当てます。
- ④正解の楽器をついたての外で鳴らして正解を見せます。



イラスト：いがき けいこ



“音楽に親しむ”というと、曲を聴いたり、楽器を演奏する事と思いがちですが、それだけではありません。道を歩いていたり、ご飯を作ったり、食べたり、お風呂の中、寝る前の静かな部屋でさえ…私たちの身の回りにはいろいろな音が溢れています。どんな物から聞こえる音なんだろう、どのようにすると出る音なんだろうと、“音”そのものに興味を持つ事が音楽の入口になります。

そこで“音”そのものに焦点をあてた「楽器クイズ」を行っています。

●アレンジパターン

回答者に楽しく参加してもらうために複数人で出題します。

アレンジ①

最初は楽器も、アクションも全部見えている状態で出題。

出題者は息を合わせて楽器を鳴らします。音を出す人以外はマネ（いわゆる寸止め）をします。

アレンジ②

アクションは見せますが、音のなる瞬間は見せないで出題。たとえば、太鼓系なら打面は見せません。（振り上げた腕だけが見える）

笛系ならば吹き口は見えず、口がスレスレ見えるという具合です。この時、出題者はなるべくオーバーアクションでいかにも私が鳴らしています、という演技が大切です。

アレンジ③

アクションも楽器も隠して出題。この場合、ヒントになるのは出題者の表情と身体のわずかな動きのみ。実際の演奏とは全く関係がないのですが顔で音を表すつもりで表情を作ったり、音を出しているようにアクションしてみてください。

いずれの方法も、どのように見えているのかを確認し、練習しておく事は欠かせません。

出題のポイント

前述した「いかにも鳴らしているアクション」は、きちんと練習をする事が大切です。

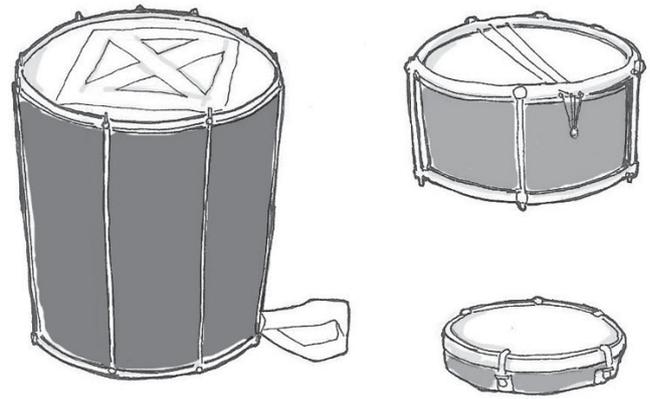
鳴らしていない人が、鳴らしているように見えているか、全員のアクションのタイミングがあっているかなどを誰かに見てもらうか、鏡などで確認するとよいでしょう。これを怠ると面白さが半減してしまいます。

音の出る方向にも注意します。出題者それぞれが離れすぎていると、音のなる方向で正解がバレてしまいます。なるべく近寄って出題するとよいでしょう。

●楽しい組み合わせ

どのような物を組み合わせてもいいのですが、「こどもの城」では共通性のある物を組み合わせています。そうする事で考える楽しみ、注意して聴く事の大切さが伝わります。

- ・タンバリン、お皿、うちわ型の和太鼓
→丸くて、叩いて鳴らす
- ・アゴゴ、トンガ、ピンセット
→挟めて、ばち状の物で叩いて鳴らす
- ・スライドホイッスル、ホイッスル、アルペンホルン
→大きさは違うが吹いて鳴らす
- ・大きい太鼓、中くらいの太鼓、小さな太鼓
→大きさが違う同じ種類の楽器
- ・トライアングル、お茶碗、ガラス瓶
→チーンとなりそうなもの

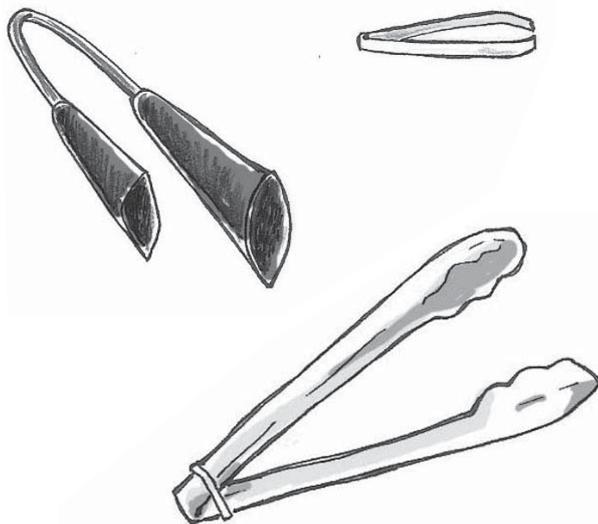


大きい太鼓、中くらいの太鼓、小さな太鼓 →大きさが違う同じ種類の楽器

どんな音が鳴るか考える場合、どのような事を頼りにするでしょうか。

例えば

- ・素材・・・木、竹、川、金属、プラスチック
- ・鳴らし方・・・こする、叩く、振る、吹く
- ・形状・・・小さいか大きいか、太いか細いか、長いか短いか、このような情報から、日常の経験と合わせて、その物からどんな音がするかを想像します。例えば、素材は“竹”で、鳴らし方を変えてみる。叩いて鳴らす、素材が違うなど、いろいろな情報をうまく組み合わせて楽しい選択肢を作ってみてください。

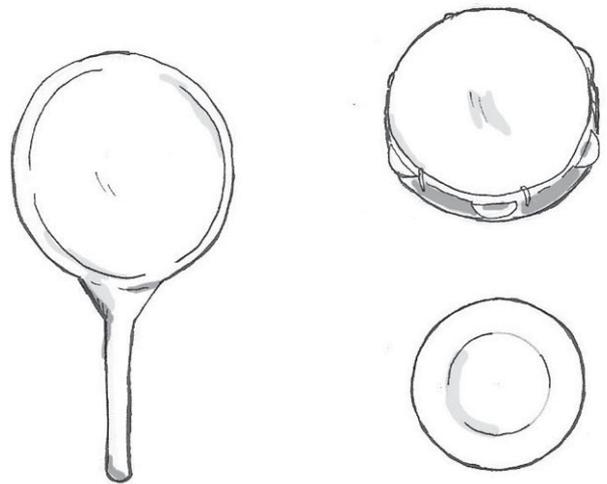


アゴゴ、トンガ、ピンセット →挟めて、ばち状の物で叩いて鳴らす

●出題素材を選ぶ

いわゆる“楽器”を使うのは一番やりやすいですが、音の出る物は楽器に限定されません。身の回りの物は叩いたり、こすったり、物によっては吹いたりしても鳴らす事ができます。同じ物でも鳴らし方を変えれば違う音が聞こえます。子どもたちと一緒に音を探すのも楽しいあそびです。

※楽器を使う場合は、一音でいいので、きちんと鳴らせる事ができるようにしておきましょう。正解を見せる時には、正しい持ち方や鳴らし方を見せてあげられるよう、下調べをしてください。



タンバリン、お皿、うちわ型の和太鼓 →丸くて、叩いて鳴らす

●まとめ

クイズをきっかけに楽器や音に興味を持ち、「さわってみたい鳴らしてみたい」と感じてもらうと立ち上げたプログラムです。聴こうとする気持ちを持つこと、どのように鳴っているのか考えること、そして自分でも音を作り出してみたいと思うことは「音楽」の楽しさそのものです。

このプログラムの特長は楽器の演奏技術に頼らなくても実施できることです。もちろんそれぞれの楽器が演奏できれば言う事はありませんが、音を出す事ができれば誰でも試す事ができます。

単なるクイズあそびと思いきや、音楽の扉がちゃんと隠れています。是非、楽しんでいろいろな音を探してみてください。